

名古屋地区の教員との対話「エネルギー教育フォーラム 2019」のアンケート結果

川合 將義

日時： 令和元年 11 月 23 日（土） 13:00 - 19:30

場所： 名古屋大学鶴舞キャンパス 鶴友会館

母集団： 先生 37 名、先生以外 28 名、総数 65 名

提出者： 先生 25 名（男子：16 名、女子：4 名、無回答：5 名）回収率 68%
先生以外 7 名（男子：4 名、女子：3 名）回収率：25%

専門： 小学校理科 10 名、小学校社会科 3 名、小学校 教科無記入 3 名
中学校理科 6 名、高校教員 3 名、先生外 7 名

過年度参加： 先生 有り 9 名、初 11 名、先生以外 有り 2 名、初 5 名

1. 全体概要

以下に集計結果を表示し、若干のコメントを記す。表中の下段のパーセントは、アンケート母集団の回答者に対する割合である。複数回答がある場合も、先生、先生以外の回答者中の何パーセントの人が回答したかが分かる。

なお、今回先生の回答率の 68%は、やや低いと思われる。それによる結果への影響は不明であるが、今後はアンケートの書き込み時間を配慮して回収率の向上を望みたい。

設問 1：講演の内容は満足のものでしたか？ その理由は？

		とても満足	ある程度満足	やや不満だ	大いに不満だ
先生	人	21	3	1	0
	%	84	12	4	0
先生以外	人	0	7	0	0
	%	0	100	0	0

先生の講演の満足度は非常に高い。資料内容は豊富だが、説明を聞いた範囲で授業に役立つと判断されて、とても満足が 84%の高率となったものと思われる。過年度参加者も 8 名が、初めての人も 9 名が、とても満足とした。先生以外では、全員がある程度満足となった。その理由は、資料が膨大で時間内に目を通しきれなかったことを気にしたことと思われる。これらの人は、設問 7、8 でわかるように放射線や原子力の知識もそれなりに有り、原子力情報の PR に関わっているのかも知れない。

設問 2：対話の内容は満足のものでしたか？ その理由は？

		とても満足	ある程度満足	やや不満だ	大いに不満だ
先生	人	21	4	0	0
	%	84	16	0	0
先生以外	人	3	4	0	0
	%	43	57	0	0

対話会に不満を抱いた人はゼロであり、今回は参加者の期待に沿ったものと言える。特に、先生のとても満足の割合が 84%もあった。設問 1 同様に過年度参加者が 9 名、初めての人が 8 名と差がない。一方、先生以外の人にとっては、とても満足とある程度満足は、ほぼ同じで、設問 1 より満足度が高い。

設問 3：事前に聞きたいと思っていたことは聞けましたか？ その理由は？

		十分に聞けた	ある程度聞けた	あまり聞けなかった	未記入
先生	人	22	0	0	3
	%	88	0	0	12
先生以外	人	6	0	1	0
	%	86	0	14	0

先生の 88%、先生以外の 86%が聞けたと言っている。未記入者には、設問 7 で放射線影響を厳しく見る人が含まれるので、そうした問題についての議論が足りなかったのかも知れない。

設問 4：今回の対話で得られたことは何ですか？（複数回答も可）

		新しい知見が得られた	マスコミと今回の対話会情報に差有った	教育指導の参考になった	未記入
先生	人	23	5	18	0
	%	92	20	72	0
先生以外	人	5	0	2	1
	%	71	0	29	14

先生の 92%が新しい知見が得られたとしている。この対話会の経験者を含めての数字であり、毎回何らかの新しい情報を掴んで頂いているとも言えよう。また、教育指導の参考になったという回答（初体験 10 人）の 72%も特筆できる。先生以外の人にとっても、シニアの知見だけでなく、先生の授業における疑問ややり方など学ぶことが多かったものと思われる。

設問 5：教員とシニアの対話の必要性についてどのように感じますか？ その理由は？

		非常にある	必要性ある	あまりない	未記入
先生	人	23	2	0	0
	%	92	8	0	0
先生以外	人	4	3	0	0
	%	53	47	0	0

設問 4 同様に先生の 92%が対話の必要性を感じており、必要性ありも含めると全員が対話の必要性を認めている。先生以外の人でもシニアだけでなく、教員も交えた対話に意義を感じたものであろう。

設問 6：今後、機会があれば再度シニアとの対話に参加したいと思いませんか？

		まだまだ話したらないので参加したい	もっと知識を増やしてから参加した。	あまりない	未記入
先生	人	8	17	0	1
	%	32	68	0	4
先生以外	人	5	1	0	1
	%	71	14	0	14

先生の 32%が、先生以外では、71%の人が話し足りないと感じている。特に原子力に関心の高いと思われる後者は、先生との対話で得ることが多かったということかも知れない。先生は今回の対話でかなりの情報が得られたことでほぼ目的を達したのか、68%の人がもっと知識を増やしてから対話をしたいということである。

設問 7：放射線、放射能に対してどのようなイメージを持っていますか？（複数回答も可）

		放射線、放射能はやや怖い	一定のレベルまでは恐れる必要はないと以前から知っていた	一定のレベルまでは恐れる必要はないことを講演、対話から知った	放射線、放射能は生活に必要であることを前から知っていた
先生	人	4	17	5	10
	%	16	68	20	40
先生以外	人	0	5	1	6
	%	0	71	14	86

先生の中に放射線を怖いと思う人が 16%いる。但し、2人は闇雲に怖いと言うのではなく、有用性の中で危険性もあるという意見である。また、一定レベルまで恐れる必要はないということを以前から知っていた人は 68%いたが、今回の対話会を通じてそのレベルに 20%が加わり、全部で 88%になった。先生以外でも、対話会後の割合が 85%とほぼ同等のレベルになった。放射線の有用性について以前から知っている人の割合が、先生で 40%、先生以外で 86%であり、後者の高さが際立ち、彼らが原子力に関わりを持つ人の現れと思われる。一方、先生の放射線の有用性についての理解が 40%に留まっているこ

とに留意したい。これは、福島第一原発事故後の放射線教育がリスクに偏っていることの反映と考えられる。今後、先生方にこの有用性を知って頂くことは大変重要に思う。

設問 8：日本のエネルギー政策では、原子力発電を基幹電力) とするが、省エネ・再エネ利用の拡大や火力の高効率化により、可能な限り削減していく（2030年に発電電力量の20～22%）とされています。対話も含めてあなたの認識は次のどれですか？その理由は？（複数回答も可）

	原子力発電の必要性を強く認識した。削減又は撤退すべきでない。	原子力発電の必要性は分かっていたので、対話の前後で認識は変わらなかった。	原子力発電の必要性は分かるが、やはり危ないから早期に削減又は撤退すべきだ。	その他	未記入
先生 人	6	15	0	4	1
%	24	60	0	16	4
先生以外 人	0	6	0	1	0
%	00	86	0	14	0

回答1、2で先生の20人(80%)に原子力発電の必要性は認識されていて、早期撤退意見はない。また、その他で回答のあった4人のうちの2人は原子力発電の必要性は認識されているが、エネルギーバランスや放射性廃棄物などの課題も考えろという意見なので、必要性を認める人は88%と見做せる。先生以外では、その他の意見もエネルギーミックスを述べているので、全員が原子力容認と考えられる。

設問 9：今後の「エネルギー教育フォーラム」を継続して行く場合、どのようなことを期待しますか？（複数回答も可）

	特定テーマでの講演。希望テーマを記入下さい。	先生の事例報告 1.講演方式、2.ポスターセッション方式、3.その他	先生同士の意見交換	見学会：原子力、地層処分、火力発電、水力発電、太陽光発電、風力発電、その他	実験設備等の紹介コーナー設置
先生 人	5	8	12	13	12
%	20	32	48	52	48
先生以外 人	0	3	5	1	3
%	0	43	71	14	43

これからのエネルギー教育フォーラムのあり方について、先生と先生外とではだいぶ意見が違ってくる。講演については、先生は20%の希望があるが、先生以外からは、無

い。同様に見学会についても先生の希望は高い。逆に先生同士の意見交換に対しては、先生以外の希望の割合が高い。これは、先生以外の方は原子力についての知識を持つので、このフォーラムでその知識を詰め込む必要がないということだろう。先生同士の意見交換については、先生以外の方は教育現場の状況をもっと知りたいという希望と考える。事例報告には、講演方式を臨む人が6名、ポスターセッションが2名である。見学会とともにクルックス管や霧箱などの実験紹介への関心も高い。

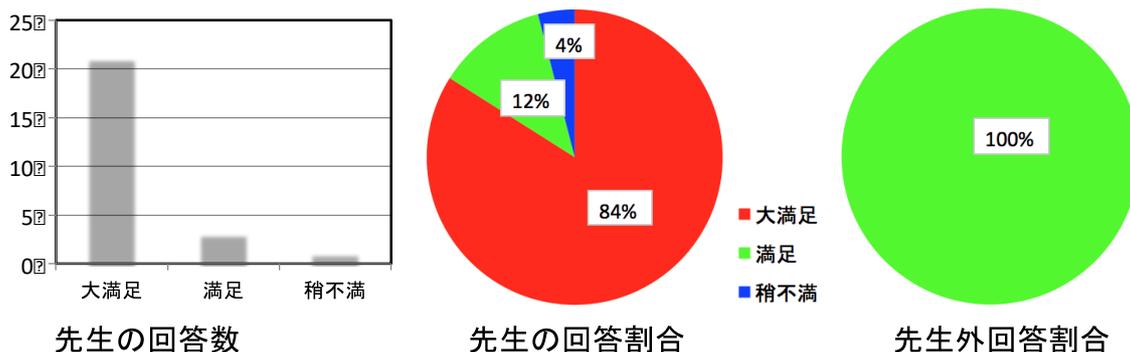
設問 10. 本企画を通して全体の感想・意見（特に教育現場に反映したいことなど）があれば自由に書いてください

先生からは8名、先生以外から3名の方から感想と意見をいただいた。先生からは色々と学び、教員として放射線・原子力エネルギーに関する科学的な概念を形成することで、将来のエネルギー問題に正しい判断のできる子供を少しでも多く育てて行きたいという言葉が、また、先生以外の方からは、この会に参加できたことの謝意と労い言葉があった。

2. 詳細報告

以下、各設問に対して、回答結果とその説明を述べる。先生と先生以外の回答には、多少の相違があるため、別けて示す。

設問 1：講演の内容は満足のものでしたか？ その理由は？



講演は、エネルギー問題等分かりやすい図表にまとめられたデータを使って行われたもので好評が得られたようだ。そのため、先生では84%の人が大いに満足とした。一方、先生以外の方は、全員が2番目の満足とした。これは、資料が充実しているが、多すぎて時間内でフォロー仕切れないという気持ちの現れであろう。先生は、資料を何度か見ること、理解もでき、授業に活用していただけるものと思う。

設問 1.1 先生からの回答

最高の評点をつけた(84%)の理由は、以下の通りである。

- ・ 現在のエネルギー事情がとても分かり易くまとめられていて勉強になった。特に具体的な日本と世界のエネルギー事情に関するデータ、特に日本が抱えているエネルギー問題がわかったから(7)。
- ・ 知らないことを多く学ぶことができ勉強になったため(3)。
- ・ 専門家との対話を通してエネルギーについての知見が深まった。
- ・ 放射線について、自分の知らなかった知識を得ることができた。
- ・ エネルギー利用量や種類別の発電量・電気料金の差など、世界全体のことから身近な話まであって良かった。
- ・ 現在、中学2年生で電流・電圧の働きを取り扱っており、授業に役立つ話を聞いて、とても充実したものだだった。
- ・ 目で見て分かりやすいデータが多く、理解しやすかった
- ・ 教員以外の方の話聞くのは貴重であった。

ある程度満足とした(12%)理由： 特に記述なし

やや不満だ(4%)の理由： _

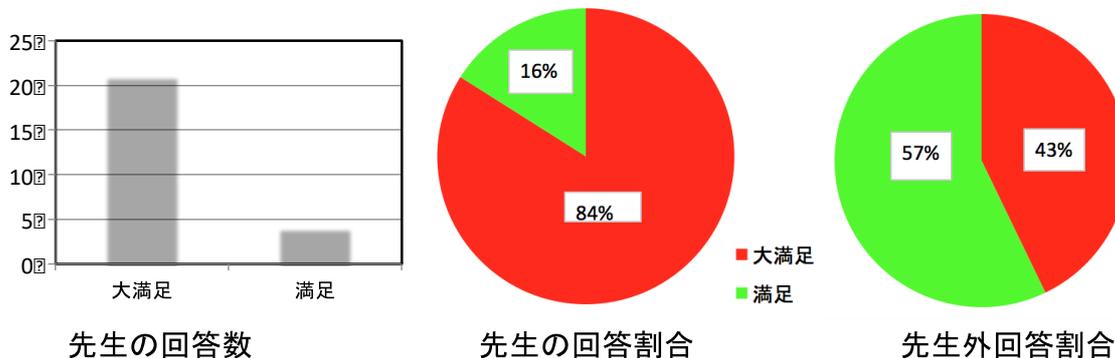
- ・ 一方通行的な授業は難しいですね。
(解説)原子力の必要性が多く盛られた内容への批判と思われる。教育現場では、それを一方的なものと呼ぶのかも知れない。原子力の抱える問題も載せて欲しいということかも知れない。

設問 1.2 先生以外の回答

ある程度満足とした(100%)理由：

- ・ 時間が足りない、or 内容が多かった。(2)
- ・ 改めて講演を「生徒」のような立場で聞いて勉強になった。
- ・ 細かいデータが集められており、良かった。
(解説)原子力や放射線情報の公衆報知等に係わった人が多そうに思われ、その経験から資料の豊富さへの賛辞の一方、限られた時間内で伝えきれないことへの懸念も示された。

設問 2 : 対話の内容は満足のものでしたか？ その理由は？



先生の満足度の高さが特筆できる。対話は、参加者の希望に基づいたテーマを対象に教育現場で遭遇した問題や疑問について議論されたであろう。その結果、放射線の知識だけでなく授業での教え方など問題の解消に役立つ情報が得られたものと推定できる。アンケート結果は、ある程度満足も含めて、全員が満足ということで、この対話会の目的は、ほぼ達せられたと言える。先生以外でも、不満はゼロであり、大いに満足とする人が 43%もあって、設問 1 に比べて高い回答率である。

設問 2.1 先生からの回答

とても満足した(84%)理由 :

- ・ 業種、教科等を超えて様々な立場の人（様々な観点）のたくさんの意見を聞くなど交流ができ、勉強になった (8)。
- ・ 疑問に思うことを聞いて放射線に対する理解を深めるとともに、専門的な立場から授業についての助言を頂けたから(2)
- ・ エネルギー問題の何が問題かを教え、どうすれば良いかを考えさせれば良いと確信を得た。
- ・ シニアの経験に基づく説明に対して、私たちにも分かるように噛み砕いて話して頂き良かった。分からないことも色々聞いて参考になった。教員以外の人のお話を聞くのは貴重であったとのコメント。
- ・ 自分が教えるためのヒントが得られた。
- ・ 他の学校の先生や専門家のお話を聞いて、知識を深められたと思うから。
- ・ 問に思ったことに対して分かり易く説明して頂き勉強になった。校種や教科を超えて電気のシステムについてどう教えるか、対話の中で段階を追った教え方について議論することができて面白かった。
- ・ これまでと違ったエネルギーミックスについて話をすることができたため。

ある程度満足とした(16%)理由

- ・ 自分が考えたこともない話題で話が聞けておもしろかった。
- (解説) シニアとの対話で疑問点が解け、知識が豊かになったこと、また、先生同士が交流して、放射線教育上の疑問や悩み、それに対する考えを聞いたことに意義を感じたとのこと。

設問 2.2 先生以外の回答

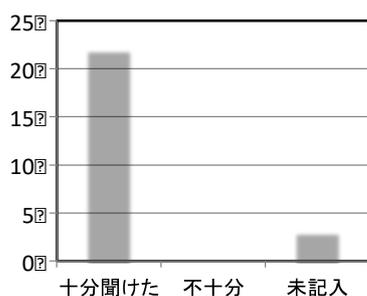
とても満足した(84%)理由：

- ・ これまでの経験を少しだが伝えられた。
 - ・ 皆さんの疑問や考えを聞くことができた。
 - ・ 同じグループの方々の悩みや気持ちを共有化することができたため。
- (解説) 先生と交流して彼らの疑問や考えを知ることができたことの意義が挙げられた。

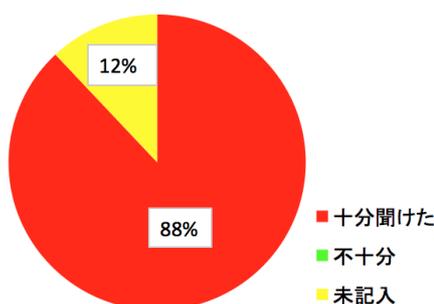
ある程度満足とした理由

- ・ グループ対話にも、もう少し時間があれば良かった。
 - ・ バランスの取れた感覚でいることが公教育には必要。
- (解説) 公教育での原子力は、推進一辺倒でなく、問題点も含めてバランス良くという意見に思われる。

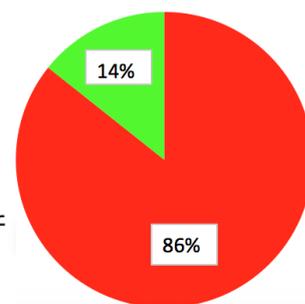
設問 3：事前に聞きたいと思っていたことは聞けましたか？ その理由は？



先生の回答数



先生の回答割合

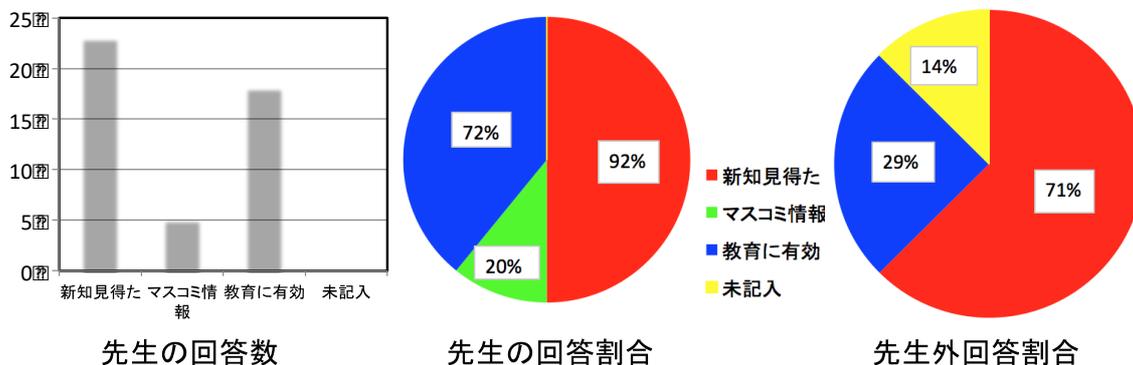


先生外回答割合

グループ対話で自分が疑問と思っていたかの設問であるが、先生で 88%、先生以外でも 86%の人が十分聞けたとしている。

先生で事前に聞きたいことがなかった人 1 名、未記入者 2 名、先生以外では一人が不十分とのことだった。不十分とされた人は、別の設問でシニアの説明の分かりにくさを記述しているため、何か議論不足になったのかも知れない。シニアは、説明技術を向上させることが望まれよう。

設問4：今回の対話で得られたことは何ですか？（複数回答も可）

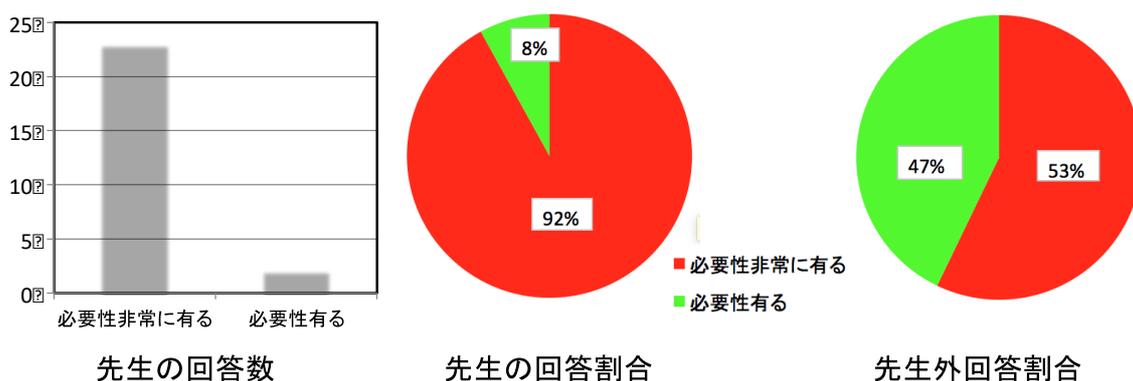


新知見が得られた人の割合が、先生において92%と極めて高い。このフォーラムへの参加経験者9名中8名も新しい情報が得られたとのことである。また、最重要目的の一つである教育に有効の回答率72%（18名）も及第と言えそうである。その内訳は、対話会初参加者10名、経験者6名、不明2名で、初参加者が多いのは当然として、経験者も新たな学びがあったということであろう。

先生以外では、複数挙げた人は一人だけで、未記入の人がいたので、新知見が得られた人が71%、教育に有効が29%と別れた。

対話内容とマスコミ情報との乖離については、先生において20%、先生以外ではゼロと極めて低い。最近、放射線問題や再稼働問題がマスコミで報じられることが少なくなり、目立たなくなったのと、対話の中で表立って議論されなかったのかもしれない。

設問5：「教員とシニアの対話の必要性についてどのように感じますか？ その理由は？」



知識と経験豊かなシニアとの対話に対して全員が有効性を認めている。特に先生においては必要性を非常に感じているとの回答率92%もあった。

設問 5.1 先生からの回答

必要性を非常にあるとした(92%) 理由は、以下の通りである。

- ・ 色々な角度から話し合うことができ、自分には無かった視点で物事を知ることができて、とても勉強になった。(5)
- ・ 貴重な経験と豊富な知識を持っている人ばかりなので勉強になる。(2)
- ・ 深い知識を持っている人と話すことで、授業で生徒に伝えることに厚みを持たせられるので必要なことだと思う。(2)
- ・ 専門的な知識を得ることができたから。(2)
- ・ 実際にエネルギーに携わってきた人の話は、重みと説得力があった。
- ・ これだけの専門家と話すことができる機会は貴重だと感じたため。
- ・ “知識”を極める人間と“指導”を極める人間とが接することで、より良い“知識の指導”を考えられるからと思う。
- ・ 教員同士だけでは得られない内容が対話の中で多く出た。

ややあるとした(8%)理由：

- ・ 毎年新たな知識を得る機会になるから。

(解説) シニアの専門的知識と豊富な経験に触れることで勉強になる、また、教育界とは違った視点を知り今後役に立つという意見に集約される。

設問 5.2 先生以外の回答

必要性を非常にあるとした(53%) 理由は、以下の通りである。

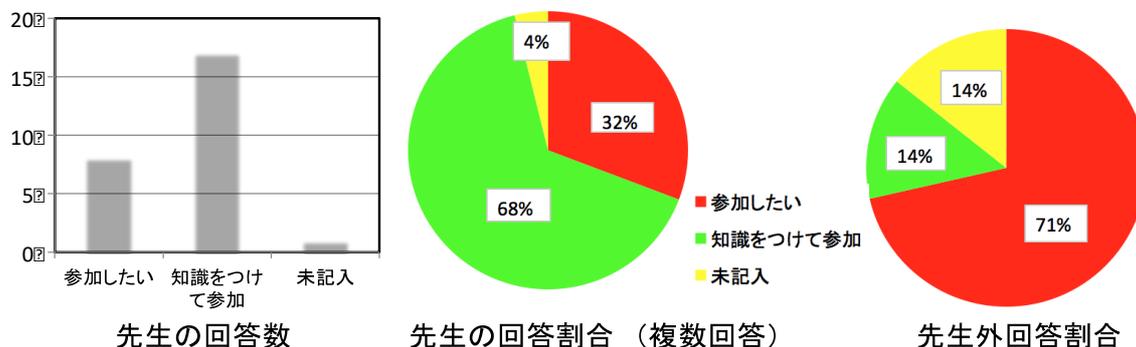
- ・ 貴重な経験と豊富な知識を持っている人ばかりなので勉強になる。
- ・ 新しい知識が得られる。もう少し分かり易く説明していただけると理解できるのではないのでしょうか？

ややあるとした(47%) 理由：

- ・ 毎年新たな知識を得る機会になるから。(2)
- ・ 色々な気づきがあるため。
- ・ バランスの取れた感覚でいることが公教育には必要であり、公立中学校の教育を踏まえると、公平な感性で教えるべきだと思っている。

(解説) 立ち位置がシニアに近いと思われ、必要性はやや下がる。その理由は、豊富な知識と経験は、先生と同じ。もう少し分かり易く説明していただけるとは、専門用語を減らせということかもしれない。バランスのとれた感覚とは、シニアに問題点にも目を向けて欲しいということかも知れない。

設問 6 : 今後、機会があれば再度シニアとの対話に参加したいと思いますか？



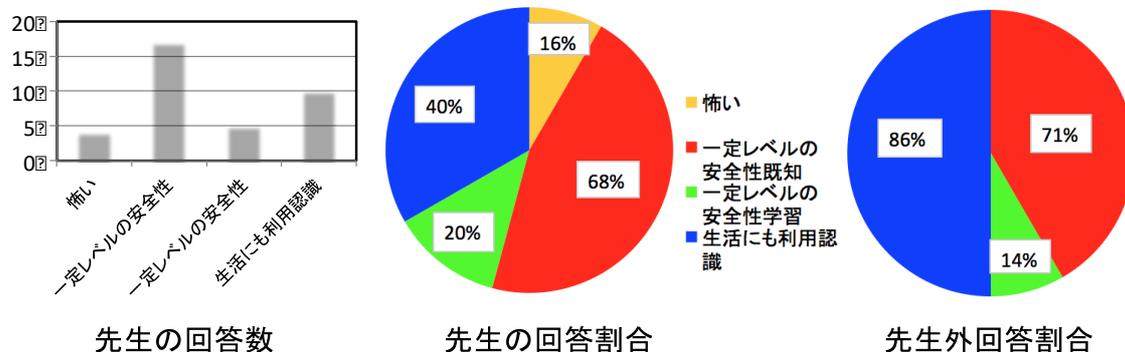
設問 6. 1 先生からの回答

未だ話し足りないので再度対話会に参加したい人が 8 名(32%)、知識をつけてから対話したい人が 17 名(64%)。未記入の 1 名を除いて対話に前向きである。再度対話会に参加したい人の割合は、学生の場合より高く、授業など現場対応について議論したいことがあるように思われる。それらの人の過年度参加について見ると、初めてが 2 名、経験ありが 2 名、残り 4 名が未記入と、未記入者の多いのも目立つ。

設問 6.2 先生以外の回答

未だ話し足りないので再度対話会に参加したい人が 5 名(71%)、知識をつけてから対話したい人が 1 名(14%)と対話に前向きである。未記入者は 1 名である。未だ話し足りない人が多いのは、教員主体の集まりで、またシニアにも遠慮して発言を控えていた気持ちの表れかも知れないし、もっとシニアおよび先生と議論したいということかも知れない。

設問 7 : 放射線、放射能に対してどのようなイメージを持っていますか？ (複数回答も可)



設問 7.1 先生からの回答

放射線に対する意識が、原子力の容認に与える影響は無視できない。一定レベル以下の放射線は恐れる必要はないとする人は、対話前に 68%が対話後の 20%加わって全部で 88%になった。一方、16%の人が怖いと感じている。その中には、一定レベル以下では恐れる必要はないこと、放射線が生活に必要であることは知っているとのことで、正しく認識していると言える。但し、放射線が生活にも利用されていることを知っている人の割合が 40%で、半分に満たないことは、原発事故の影響かも知れない。今後の子供達への放射線教育を考えると、先生には放射線のリスクだけでなく、利用のことをしっかりと伝えることが大変重要に思われる。

設問 7.2 先生以外の回答

一定レベル以下の放射線は怖くないと言うことは、以前から知る人は 71%、大和で知った人が 14%で、全体の 85%は、先生の回答とほぼ同じである。放射線が生活に必要であることを知っている人は 86%と高い。この数字から放射線情報に関わる人と判断した。

設問 8：日本のエネルギー政策では、原子力発電を基幹電力) とするが、省エネ・再エネルギー利用の拡大や火力の高効率化により、可能な限り削減していく（2030 年に発電電力量の 20～22%）とされています。対話も含めてあなたの認識は次のどれですか？その理由は？（複数回答も可）



上記の設問文の 20～22%の数字は、地球環境を守るためのパリ声明に対応して設定されたベストミックスの値だが、そうした議論の無かったグループの人には、単に原子力を維持するためと取られた可能性がある。その結果、その他を選択してエネルギーバランスやミックスを考慮することが必要等の意見が出た。この回答は、原子力の必要性を認識したものと取れる。

先生においては、重複回答もあるので、回答 1、2 にその他の 2 名を加えた 22 名(88%)

が原子力の必要性を認識されたものと言える。一方、先生以外では、その他の人も含めて全員が必要性を認識している。以下に、それぞれの回答の理由を示す。

設問 8.1 先生の回答

「原子力発電の必要性を強く認識した。削減又は撤退すべきでない」(24%)の選択理由

- ・ 資源がない日本にとってリスクはあるが、最も効率が良い原子力発電は必須であり、削減すべきではない。
- ・ 化石燃料の CO2 リスクと、途上国が先進国と同様のエネルギーを持つ権利を考えるとそうなる。
- ・ 日本の今の状況で原子力なしで、エネルギーを確保し続けることができるか疑問に思うので。
- ・ 日本には向いている。

「原子力発電の必要性は分かっていたので、対話の前後で認識は変わらなかった」(60%)

の選択理由

- ・ 現実的に考え、原子力発電は必要だと思う。発電量のバランスについては、考える必要はあると思う。
- ・ 再生可能エネルギーと原子力は相反するものではなく、問題は化石燃料を減らすことであるというのが心に届いた。

その他(16%)の選択理由

- ・ 原子力の発電性は強く感じた。バランスの問題に思われる。
- ・ 原子力の必要性を認識することはできた。しかし、放射性廃棄物の処分問題、資源の限界量…等の問題について考えていく必要がある。

設問 8.2 先生以外の回答

「原子力発電の必要性は分かっていたので、対話の前後で認識は変わらなかった」(86%)

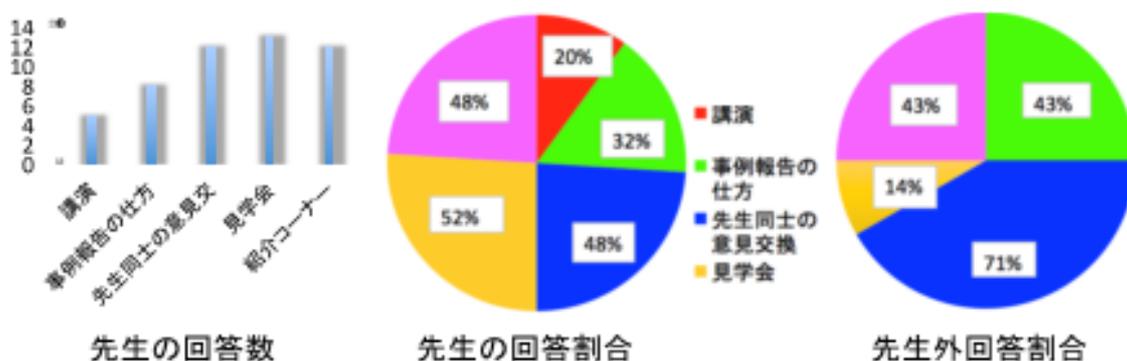
の選択理由

- ・ 原子力発電は対策されており、危険でなく、また、CO2 を排出しない発電方法であるため。
- ・ 現時点でのエネルギー事情を考えると、原子力発電は次期エネルギーが開発されるまでは、使っていくべきと考える。
- ・ 日本としてエネルギーミックスが必要である。
- ・ 原子力発電の必要性は分かっていた。

その他(16%)の選択理由

- ・ エネルギーミックスの視点が必要。子供達が選択する上で、現段階での必要性から将来への視点も育てたい。

設問9：今後の「エネルギー教育フォーラム」を継続して行く場合、どのようなことを期待しますか？（複数回答も可）



先生とそれ以外とは、希望内容に幾分違う。先生では、施設見学会、先生同士の意見交換、紹介コーナーと、授業に関わるものが寄せられて、先生以外では、先生同士の意見交換、先生の事例報告、紹介コーナーと先生の授業内容に関わるものが寄せられた。特定テーマでの講演希望は、先生においても高くない。

特定テーマでの講演。 希望テーマを記入下さい。

先生 先生以外の方が教育に求めること（エネルギー教育）
エネルギーの善と悪

先生の事例報告

先生： 講演方式 4名、 ポスターセッション方式 2名
先生以外： 講演方式 2名、 ポスターセッション方式 0名

先生同士の意見交換

具体的な提案はないが、先生以外から以下の意見が出ている。

先生方の疑問を知りたい。

先生方の悩みや気持ちをさらに聞きたい。

見学会の希望

先生： 原子力 4名、地層処分 5名、火力発電 5名、水力発電 5名、
太陽光発電 4名、風力発電 2名

先生以外： 原子力外：原子力 1名、地層処分 1名

実験設備等の紹介コーナー設置

先生： 自分でも作れる体験もあると良い。

先生以外： 自分でも作れる体験もあると良い。クルックス管など

設問 10：本企画を通して全体の感想・意見（特に教育現場に反映したいことなど）があれば自由に書いてください

先生からのコメント

- ・ありがとうございました。
- ・教師がエネルギー・放射線に関わることを意識して、日頃から授業に取り組む必要性を感じた。
- ・我々教員が、放射線・原子力エネルギーに関する科学的な概念を形成することで、将来のエネルギー問題に正しい判断のできる子供を少しでも多く育てて行きたいと思いました。
- ・簡単にシンプルに、公平性を保証しつつ、教科書に沿いながら活用したいと思いました。
- ・とても勉強になりました。もんじゅについて良く分かりました。
- ・貴重な時間を過ごすことができました。自分の知識の少なさに恥ずかしいですが、今後も学んで行きたいと思えました。ありがとうございました。
- ・自身が電気の仕組みを理解することができたので、子供にも伝えられればと思った。
- ・マスコミなどで報道されていることが全てでなく、自分自身で考え、判断することが大切であること。
- ・一つのエネルギー発電だけでは世の中を賄うことができないこと。一つのエネルギー発電だけでは世の中を賄うことができないこと。

先生以外のコメント

- ・事務局の方々、お疲れ様です。継続して開催をお願いします。
- ・お誘いいただきありがとうございました。次年度以降も是非参加させて頂きたい。
- ・本日はありがとうございました。様々な経験をされている方々に出会えて勉強になりました。

以上

(令和元年 12 月 3 日作成)
(令和元年 12 月 22 日修正)